

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年3月6日
学校法人念法学園
幼稚園型認定こども園念法幼稚園

1. 本園の教育目標

『げんきなからだ・すなおなこころ・感謝のきもち』を園訓とし、よりよい環境の中で、直接的・間接的体験を積み、生涯にわたる発達の基礎を培う。

「心の教育」を主とした、心情・豊かな感情・意欲・態度など教育の根本とし、「生きる力」の育成に力を注ぎ、世の中のお役に立つ立派な人に育てる。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

本園の教育目標を重視する中で保育内容・環境を見つめ直し、より子どもの育ちに繋げるとともに、園生活での幼児一人一人の成長を保護者にわかりやすく伝える工夫をする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育環境の充実を図る	B	・園内研修で保育環境について保育者全員で共通認識を持つこと ・環境チームが季節に応じて園庭環境を構成する ・朝の保育環境構成 ・全体コーナー保育
2	保育の可視化し、保護者と幼児の姿の共有を図る	B	・ドキュメンテーションを各クラス月2回配信 ・ドキュメンテーションに動画を掲載 ・満3歳児は保育室内にドキュメンテーションを掲示 ・園庭開放や参観、懇談時の保護者との対話
3	教育の質向上のために教職員の園内・園外の研修を充実させる	C	・外部講師による園内研修を計4回実施 (特別支援2回・子ども理解・(保育環境)) ・園内研修(振り返り・ドキュメンテーション・保育者の心得) ・公開保育(ECEQ®)への参加 ・非正規職員の園内研修
4	組織運営	D	・業務の役割分担 ・職員配置 ・業務の見える化
5	安全管理	D	・バス運行マニュアル作成 ・その他マニュアル作成

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	外部講師による園内研修で子ども理解と保育環境を全保育者で学びを深めれたことが、保育の質向上に繋げることができた。一方で、それぞれの保育者の環境や子ども理解に対する意識に差があると感じる場面も多く、保育者間の連係や情報共有し、ボトムアップしていくことが必要と感じた。保育の可視化は、動画を掲載したり、行事ごとの配信など新たな取り組みがあり、前年に比べて充実していた。今後の課題は、保育の可視化（ドキュメンテーション）が保育者のふりかえりのツールになること、保育者間の情報共有に使われるようになることである。 研修に関しては、各保育者自身が必要と考える研修を受講し、資質向上に努めていた。研修で学んだことをアウトプットできる環境にすることが今後課題で。

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

◎「保育環境の充実を図る」

子どもの遊びから担任が自ら考えて玩具や備品を準備することで保育室の環境が充実した。園庭は、環境チームで話し合っって遊びのコーナーを作ったりすることで、ドッチビーや相撲など新しい遊びもみられた。砂場のおもちゃや砂の質を変えたりと見直したことで、子どもの遊びにも変化がみられた。まだまだ保育環境に対する保育者の意識に差があるので、切磋琢磨してより良い環境を作っていく。素材や廃材を使って子どもたちが創造的に考える遊びが展開される環境を目指す。

◎「保育の可視化し、保護者と幼児の姿の共有を図る」

ドキュメンテーション(写真付き保育記録)を各クラス月2回配信し子どもの姿を保護者と共有することができた。今年度から動画配信も取り入れたり、満3歳児クラスでは、保育室内にドキュメンテーションを掲載するなど、より充実したものを目指した。まだまだ配信する内容を充実させていくことや保育のふりかえり、保育者間の情報共有に使われる必要がある。

◎「教育の質向上のために、研修を充実させる」

園内研修は、外部講師を招いて、特別支援・子ども理解・保育環境など園内の課題に対する研修など実施することができた。
外部研修は、オンラインと今年度から対面研修も増えてきて、各保育者自身が必要と考える研修を積極的に受けることができていた。
公開保育にも積極的に参加し、他園の事例を参考に自園に取り入れる姿もみられた。
研修で学んだことを実践できる環境を作っていくことが今後必要と考える。

●研修実績

- (園内研修) ・ 特別支援研修 2回 ※外部講師
- ・ 子ども理解 ※外部講師
- ・ 保育環境 ※外部講師
- ・ 学期の振り返り
- ・ 子どものみとり
- ・ 保育者として (価値の遠近法)

(外部研修) ※一部掲載

(一社) 大阪市私立幼稚園連合会主催研修会

- 「応急処置と対応」「造形遊びから表現を育む」
- 「幼児の食について」「子どもの人権」「夢の広がる歌唱指導講座」
- 「幼稚園教育要領の理解」「園内の安全・安心のために」
- 「絵本の読み聞かせのポイント」「幼児期の子どもの防災教育」
- 「感染症の基本」「愛着の課題をもつ子どもの理解と支援」

(一社) 大阪府私立幼稚園連盟主催研修会

- 「ミドルリーダー研修」「子どもの育ちを喜び合う記録の開発と検討」
- 「研修企画入門」「ファシリテーション・リーダーシップ連続研修」
- 「大研大会」

公開保育 (ECEQ®)

- 「ほりえあけぼのこどもえん」「ひじり幼稚園・保育園」「喜連東幼稚園」
- 「追手門学院幼稚園」「大宮幼稚園」

公開保育

- 「はまようちえん」

その他

- 「新任研修トレーナー講座」
- 「カリキュラムマネジメント研修」

◎ 「組織運営」

職員数が増えているが、業務分担ができていないことや業務の煩雑により、効率化を進めることができなかった。また、職員配置についても課題が残った。

今後、より良い組織運営をするためにも、業務の見える化やタイムマネジメントが必要である。

◎ 「安全管理」

令和4年9月に起きた園バスの置き去り死亡事故もあり、子どもの安全に対する保育者の意識向上に努め、今まで当たり前のように行っていた園バス添乗員の確認作業もマニュアル化をし、またチェック体制の強化にも取り組んだ。

また、保育者の虐待についても多く報道されたこともあるので、保育者としてのセルフチェックリストを活用して保育者の関わり方について話し合う機会を作った。

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保育環境	・異年齢の関わりを増やすために縦割りのチームをつくり定期的に取り組む。 ・保育室の環境への各保育者の意識を高める。 ・他園の保育環境を全職員で見学に行く。
2	保育の可視化	・ドキュメンテーションの回数を増やすことや内容を充実させる。 ・ドキュメンテーションを保育のふりかえりや情報共有の資料として活用する。 ・学期ごとの保育の振り返りを伝える。
3	研修の充実	教育の質向上のために、研修計画及び新任教育課程を作成し、園内研修の充実を図る。また、園外研修へ積極的に参加できる体制を整える。
4	組織運営	・職員会議、学年会議の活性化を図る ・職員間の情報共有を徹底する。 ・明確な運営・責任体制を整理する。
5	安全管理	・新遊具の遊び方・注意点のマニュアルを作成する。 ・その他、園運営に必要な安全マニュアルの改善を図る。
6	その他	・念法保育園児との関わりを持てる機会をつくる。 ・子育て支援を充実する。

6. 学校関係者の評価 (保護者3名・卒園児保護者1名・地域協力者1名 念法学園理事・評議員1名)

※欠席1名(卒園児保護者)

- ・ドキュメンテーションは、良い取り組みであるが、作成することが保育者の負担となり過ぎないようにし、子どもと関わる時間を一番に大切にすることは今まで通り継続してください。
- ・園と保護者と地域が一体となって子育てすることを意識してた取り組みをしてください。
- ・卒園児保護者でもあるので我が子が在籍していた時の保育者が退職していることは寂しく思います。長く働ける職場環境を作ってください。
- ・ドキュメンテーションは、月2回で十分に伝わります。今後も月2回で継続してください。
- ・コロナ禍は、保護者同士の繋がりをもつことが難しかったので、園で保護者同士の関わりが持てる機会を設けて欲しいです。
- ・ドキュメンテーションやインスタと保育の可視化は、保護者にとっても園での子どもの様子や活動がわかるので安心します。継続して取り組んでください。
- ・課題を一つずつ改善したり、新しい取り組みをしたり、より良い園を目指して進めているように感じます。今後も継続して取り組んでください。
- ・昨年度もお伝えしましたが、各自の自己評価が低いので、もっと自分自身を評価してください。